

第3回福山駅前デザイン会議を開催

資料1

福山駅前の再生を具現化するために、2019年度(平成31年度)に策定する(仮称)デザイン計画で示す内容の骨子や、福山駅北口広場整備の基本的な考え方について議論を行いました。

(仮称)デザイン計画の骨子を決定

～ (仮称)デザイン計画の骨子 ～ (資料11)

- 1 デザイン計画の目的
- 2 福山駅周辺エリアの現状と課題
- 3 福山駅周辺エリアの価値を高める戦略
- 4 福山駅周辺エリアをつなぐ動線の形成
- 5 駐車場の再編
- 6 駅前広場の再整備
- 7 パークPFIの導入
- 8 ICT, IoT, AIを活用した生活の質の向上
- 9 エリアマネジメント
- 10 公民連携による駅前再生の仕組みづくり
- 11 4つのエリアビジョン
 1. 福山城周辺エリア
 2. 中央公園周辺エリア
 3. 伏見町周辺エリア
 4. 三之丸町周辺エリア
- 12 ロードマップ

- ・エリア価値を高めるための戦略は非常に重要。事業を単発的に行うのではなく、それぞれを関連付けて行うという考え方を含めることが大事。
- ・周辺部に**フリンジ駐車場を整備するなどして、駅前が歩いて楽しめる空間となるような駐車場と道路の配置**を考えていく必要がある。
- ・にぎわいを生み出すイベントや仕掛けと歩行者スペースが共存できるような空間配置にできるよう**駅南側の広場と北口広場の整備とあわせて検討**していかなければならない。
- ・いま「瀬戸内の島々とアート」が世界から高い評価を受けており、この要素を取り入れることも検討すべき。福山城周辺の**美術館やアート作品と連動しアートを感じられる駅周辺**となることで吸引力がある空間になる。
- ・建物の1階部分の使い方が重要になる。**まちづくりのコンセプトを行政と民間が共有し、駅周辺の各コンテンツを連動させる**ことが必要。
- ・中央公園のパークPFIだけでなく、**小規模な都市公園をうまく活用することが回遊性の向上につながる**。
- ・ビジョンやデザイン計画を通して将来像を提示していくことで、民間としても投資しやすい土壌が生まれている。今後、民間活力を最大限活用するためにも、**早い段階から民間と連携し、民間の声を反映できる仕組みづくり**や柔軟な計画変更といった対応も求められる。
- ・行政と民間では、目的達成までのプロセスが違う。公民連携でうまくまちづくりを進めていくためには、行政が決め過ぎず、互いの違いを理解して寄り添っていくことが大切。
- ・年齢や障がいの有無にかかわらず、**誰もがゆったりと過ごすことができる雰囲気や移動しやすい動線、安心・安全な駅前**にしていくための取組についての議論も深めていかなければならない。
- ・福山は、ビーズからタンカーまで作ることができるものづくりのまち。今は、この強みを活かしきれていない産業構造になっているのではないかと。**人材や技術が顕在化することで、まちを大きく成長させるコンテンツ**になる。
- ・面白いコンテンツは、人が作り出す。いま伏見町を中心に人材が集まってきており、この人たちが活躍できる場所をつくるのが駅前の再生につながる。
- ・集客の源は、情報発信。**魅力的な情報が継続的に自動生産されるような仕組みを構築することも重要**になる。

➤ 来年度のデザイン会議では、この骨子を基に、引き続き議論を行います。今後福山駅周辺で取り組むソフト・ハードの事業について「いつ・どこで」までを明記することで、駅前の再生につながる良質な民間の投資を誘発することができる計画を策定します。



福山駅北口広場整備の考え方

➤ 「福山駅北口広場整備の考え方(案)」を提示しました。

JR西日本岡山支社からの提案を駅北口広場の整備案に採用する方針を確認しました。

ホテルや商業店舗、福山城を望むことができる展望広場を備えた南北の交流軸を形成する施設や鉄道利用者等の利便性を向上する交通機能を確保した整備案となっています。

中央公園におけるパークPFI制度の導入

➤ テーマは「公園の小さなリノベーション」

まちづくりの核と位置付けている中央公園に新たな魅力を生み出すため、パークPFI制度の導入を検討しています。

ハード整備中心ではなく、小規模の投資で公園の「使い方」を変えることがこのプロジェクトの基本的な考え方です。

来年度、公園の運営や整備を行う事業者の公募を行う予定です。